

11-2 地域概況調査

地域概況調査では、次の2点を明らかにするために、主として地形、岩石・鉱物の露頭、地質構造、化石産地、自然現象及び土壌を対象として、既存資料の収集、空中写真の判読、専門家等へのヒアリング及び概略踏査を実施する。

①地形及び地質の概要

対象事業実施区域及びその周辺区域における地形の起伏の状態及び傾斜区分並びに表層地質の区分及び地質構造等について把握する。

なお、必要に応じて深層地質についても把握する。

②重要な地形及び地質の分布、状態及び特性

対象事業実施区域及びその周辺区域における重要な地形及び地質を把握するとともに、その右京を把握する。

必要に応じて歴史的・文化的背景又は地域住民の意識等についても把握し、参考とする。

結果は、①については、地形分類図（縮尺1/5万）、表層地質図（縮尺1/5万）、土壌図（縮尺1/5万）及び主要な地形・地質リスト、②については、重要な地形・地質の分布図及びそれらの特性等の概要表を作成してとりまとめる。

なお、調査対象地域は、事業地を中心とする概ね20km四方とするが、場合に応じて拡大又は縮小する。

1 地形及び地質の概要

地形分類図、表層地質図及び土壌図などの既存資料を収集、整理する。また、調査対象地域に存在する主要な地形・地質（地形、岩石・鉱物の露頭、地質構造、化石産地、自然現象及び土壌）をすべて抽出、整理して、主要な地形・地質リストを作成する。

上記の結果をもとにして、主要な地形・地質の分布、成因、構造等の概要について説明する。

なお、地形分類図、表層地質図、土壌図は、原則として1/5万程度の縮尺の地形図をベースとして作成することとするが、既存資料の精度が低い場合には、1/20万の縮尺でもやむを得ないこととする。

環境アセスメント書では適当な大きさに縮小した図面を本文中に掲載するとともに、原寸大の図面を巻末に綴じ込んでおくことが望ましい。

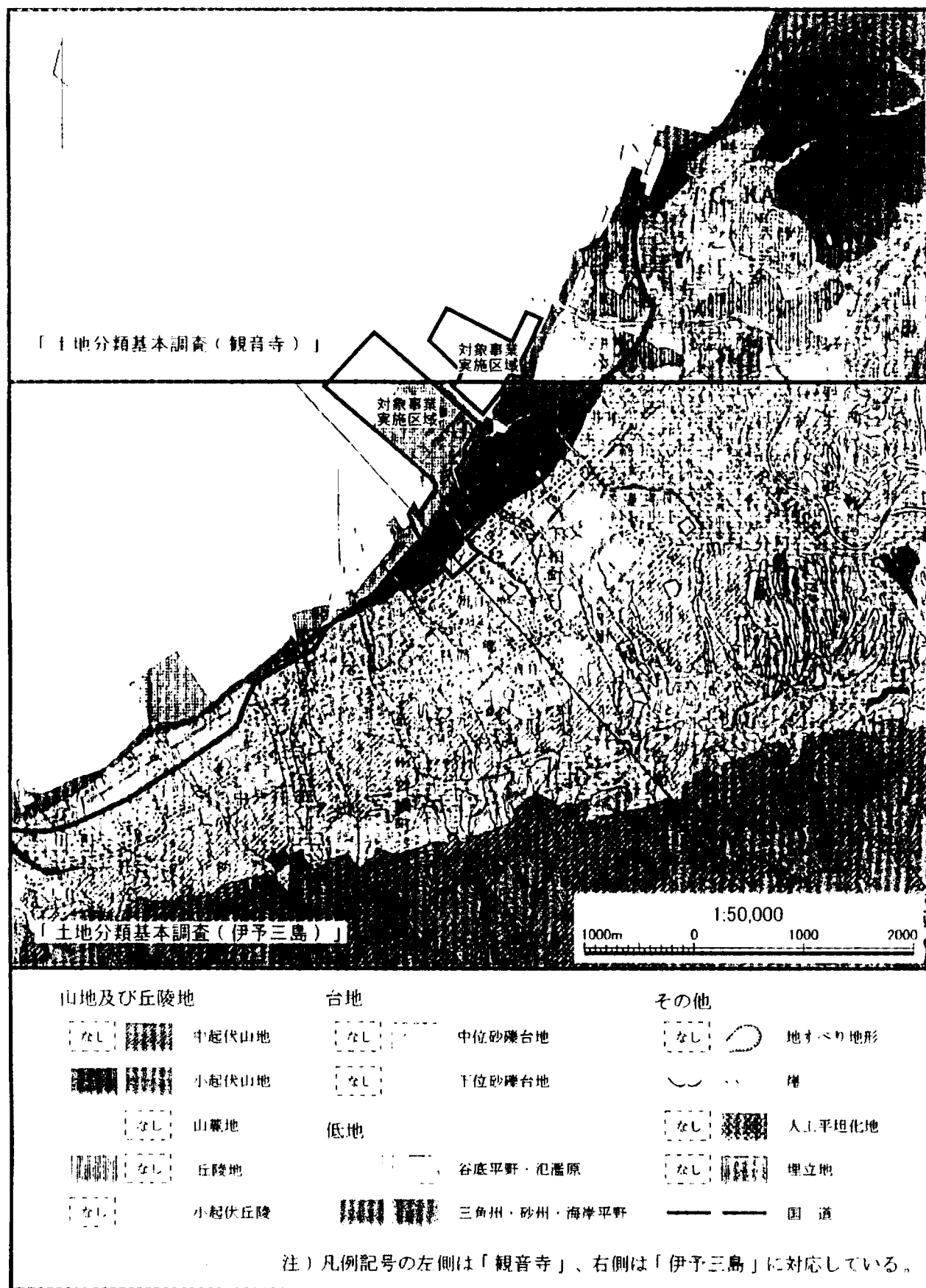
図11-3 地形分類図



大地形区分	中地形区分	凡例記号	概要
山地	中起伏山地	1	起伏量400~600mの山地
	小起伏山地	2	起伏量200~400mの山地
	山麓地	3	山地周縁に分布する緩斜面で、周氷河作用によって形成された山麓緩斜面を含む
火山地	大起伏火山地	4	起伏量600m以上の火山地
	中起伏火山地	5	起伏量400~600m以上の火山地
	小起伏火山地	6	起伏量200~400m以上の火山地
	火山麓地	7	火山山麓を成す
丘陵地	大起伏丘陵地	8	起伏量100~200mの丘陵で、山地の周縁部に発達する
	小起伏丘陵地	9	起伏量100m以下の丘陵
	火山性丘陵地	10	火山地域に分布する大起伏丘陵
台地・段丘	砂礫台地(上位)	11	洪積世の砂礫等による上位の台地で、分布は狭小
	砂礫台地(中位)	12	洪積世の砂礫等による中位の台地
	砂礫台地(下位)	13	洪積世あるいは沖積世の砂礫等によりなる下位の台地
低地	扇状地性低地	14	沖積低地のうち主として扇状地と砂礫質氾濫原で各河川沿いに分布する
	三角洲性低地	15	沖積低地のうち河川下流部のシルト質、粘土質のもの
	自然堤防・砂洲	16	沿岸低地の外縁部に分布
事業が実施されるべき区域		○	

資料：土地分類図（地形分類図）（国土庁・愛媛県、昭和〇〇年）

【例】



山地及び丘陵地

- なし 中起伏山地
- 小起伏山地
- なし 山藪地
- 丘陵地
- なし 小起伏丘陵

台地

- なし 中位砂礫台地
- なし 低位砂礫台地
- 低地
- 谷底平野・氾濫原
- 三角州・砂州・海岸平野

その他

- なし 地すべり地形
- 崖
- なし 人工平坦化地
- なし 埋立地
- 国道

注) 凡例記号の左側は「観音寺」、右側は「伊予三島」に対応している。

資料：「土地分類基本調査(観音寺)」1972、香川県
 「土地分類基本調査(伊予三島)」1982、愛媛県

図3-25 対象事業実施区域周辺における地形図

資料：富郷ダム工業用水取水設備計画に係る環境影響評価書 平成13年3月 大王製紙(株)・丸住製紙(株)